

化学物質管理活動 と リスクコミュニケーション

2008 . 2 . 1

エプソンイメージングデバイス(株)

経営管理部 環境担当

部長 小松 教幸

事業ドメイン



エプソンイメージングデバイスは、
セイコーエプソンの
企業ビジョンの中で
i3 (imaging on glass)
の中核を担っています。

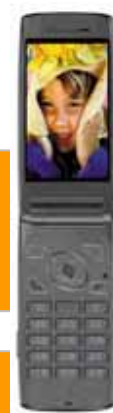
2004年10月
三洋エプソンイメージングデバイス(株) 設立

2006年12月 エプソン100%子会社
エプソンイメージングデバイス(株)に社名変更

主な事業領域

= 中小液晶パネル / モジュール製造 =

Mobile Phones



Digital Cameras - Video Cameras



Automotive Applications



New Market
(PMP, Printer·Viewer etc.)



会社概要

社長：有賀 修二
設立：04/10/1
資本金：275億円
従業員：約2,400名

本社
1000名



MD-TFD

東京営業所



鳥取事業所
1000名

T1 (5号棟) T2 (6号棟)



LTPS



a-TFT

海外拠点



SZE



EHK



EIPH

岐阜事業所
300名



LTPS

大阪営業所



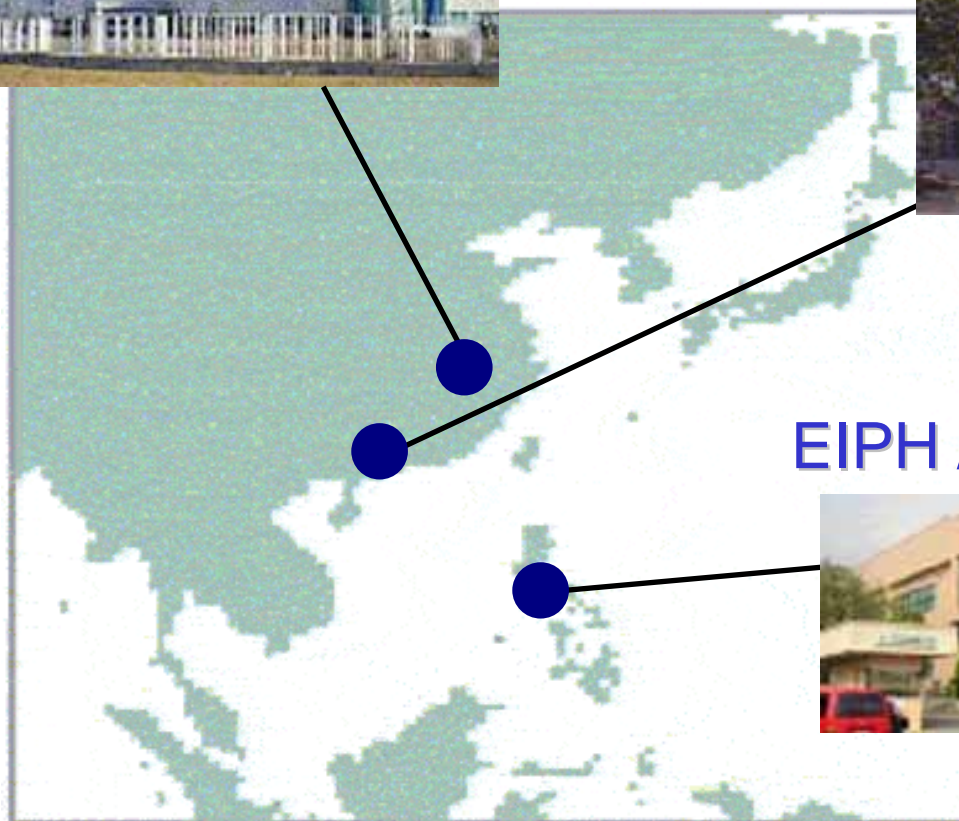
- 国内生産拠点
- 営業拠点

海外生産拠点

SZE (中国 蘇州)



EIHK / PIF (香港・深圳)



EIPH / IMI (フィリピン ラグナ)



エプソンイメージングデバイス(株)環境方針

エプソンイメージングデバイス株式会社は、
セイコーエプソングループの環境理念である

「**企業活動と地球環境との調和**」を
めざして、従業員全員の総力を上げ、
環境に調和した商品の創出・提供、
環境負荷低減をめざした

全プロセスの革新・構築に、
積極的に取り組んでいきます。

社長 有賀修二



(1) 環境と経営の結び付け

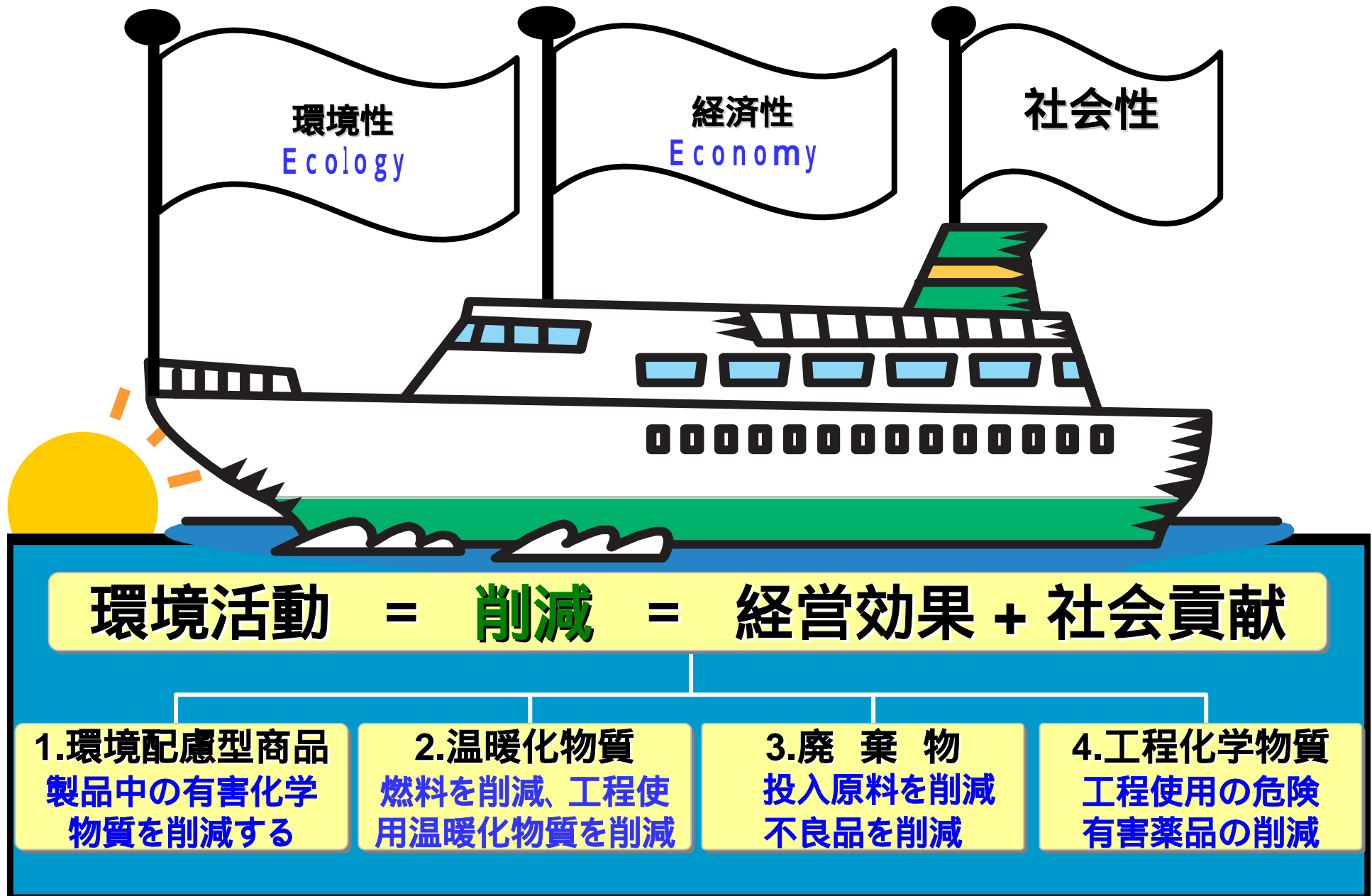
全生産活動における環境活動と業務を一体化

(2) 商品系化学物質管理システムの独自構築による

スピーディな顧客要求対応

(3) 社会貢献活動と地域コミュニケーションを定着化

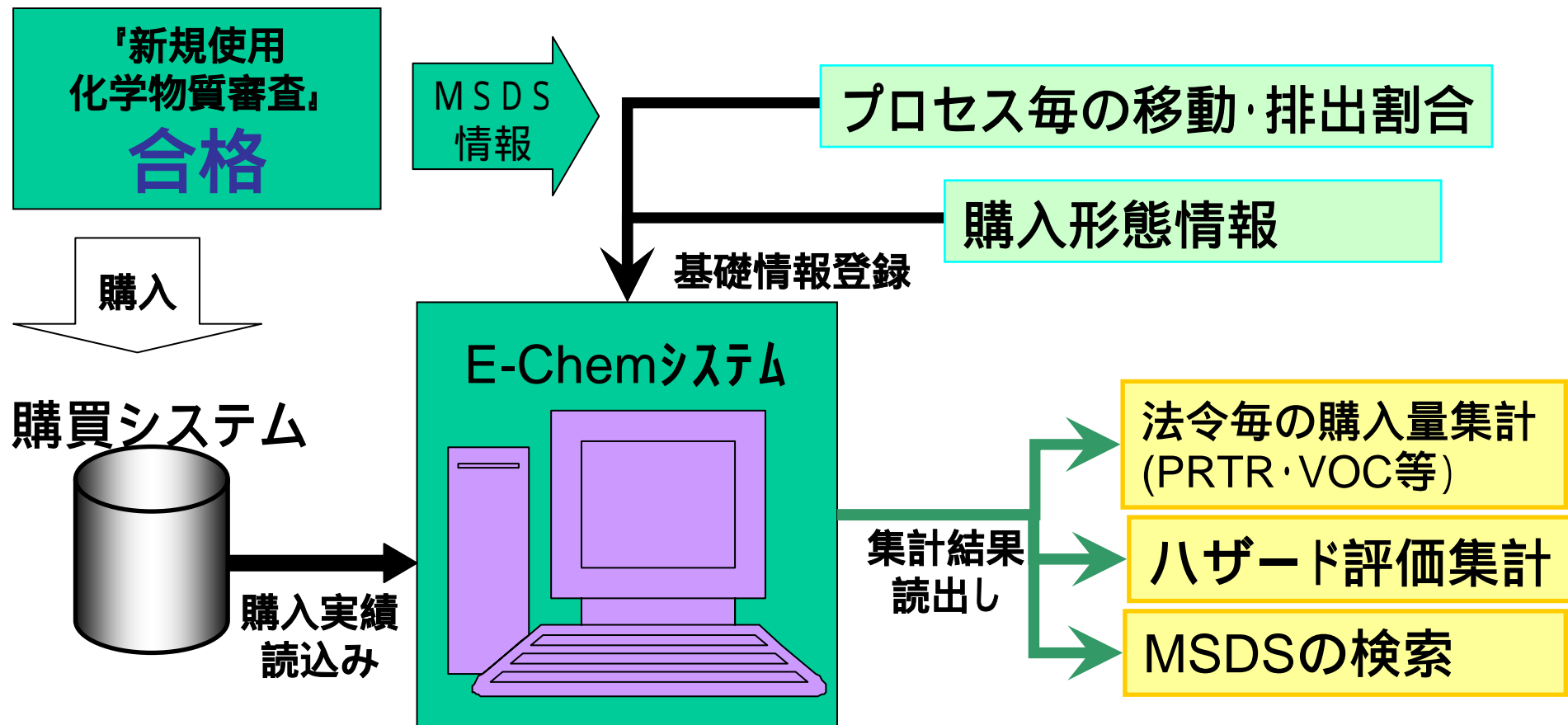
環境活動の基本方針



化学物質管理

化学物質の危険性をリスク評価して
使用量の削減とリスク低減化を進める

《E-Chemシステム》



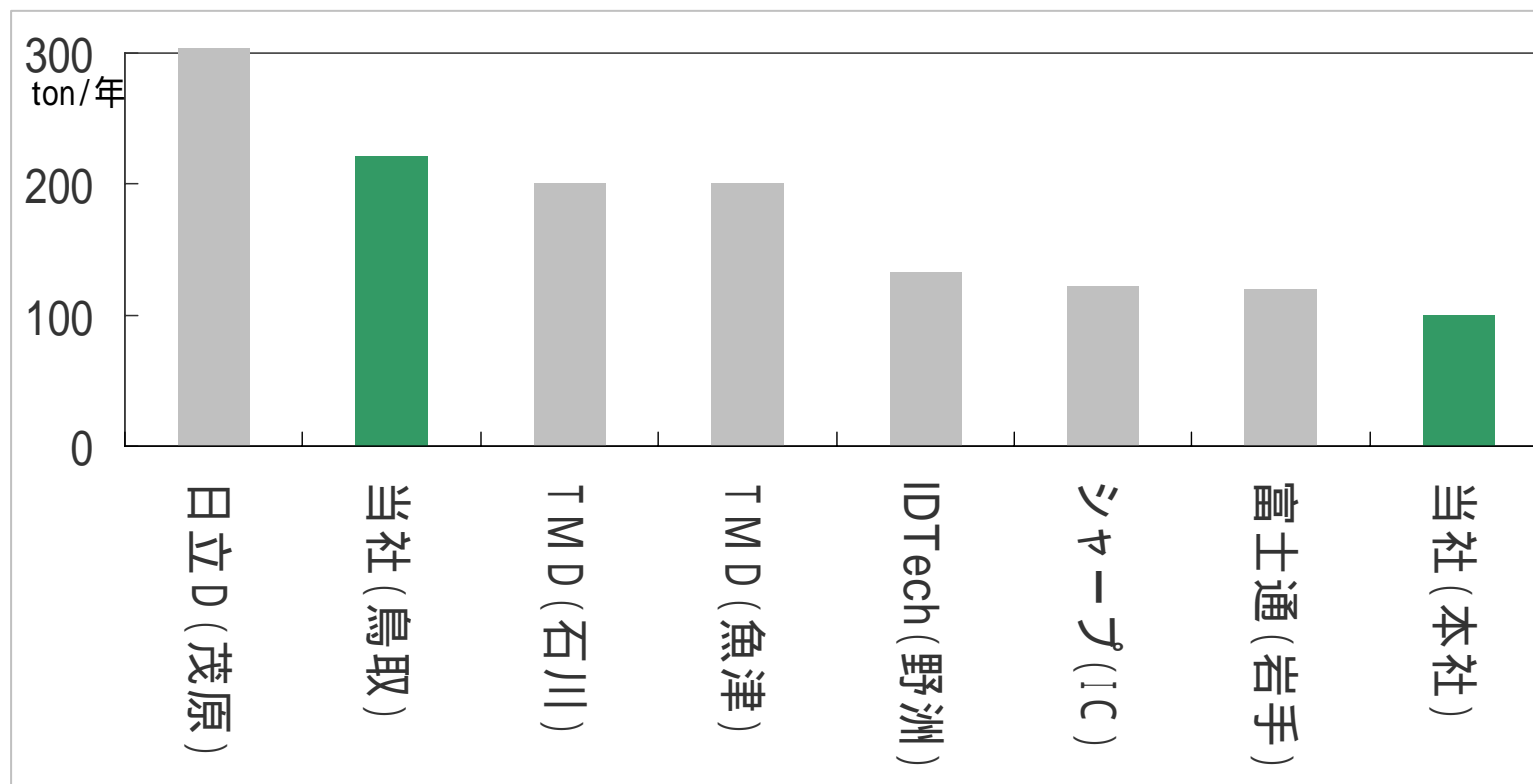
化学物質のリスク削減活動

リスク要因

2004年度取り組み開始
P R T R 物質 「2-アミノエタノール」全廃に取り組む

もし、
環境影響が心配されて
使用制限されたら
工場停止となる！

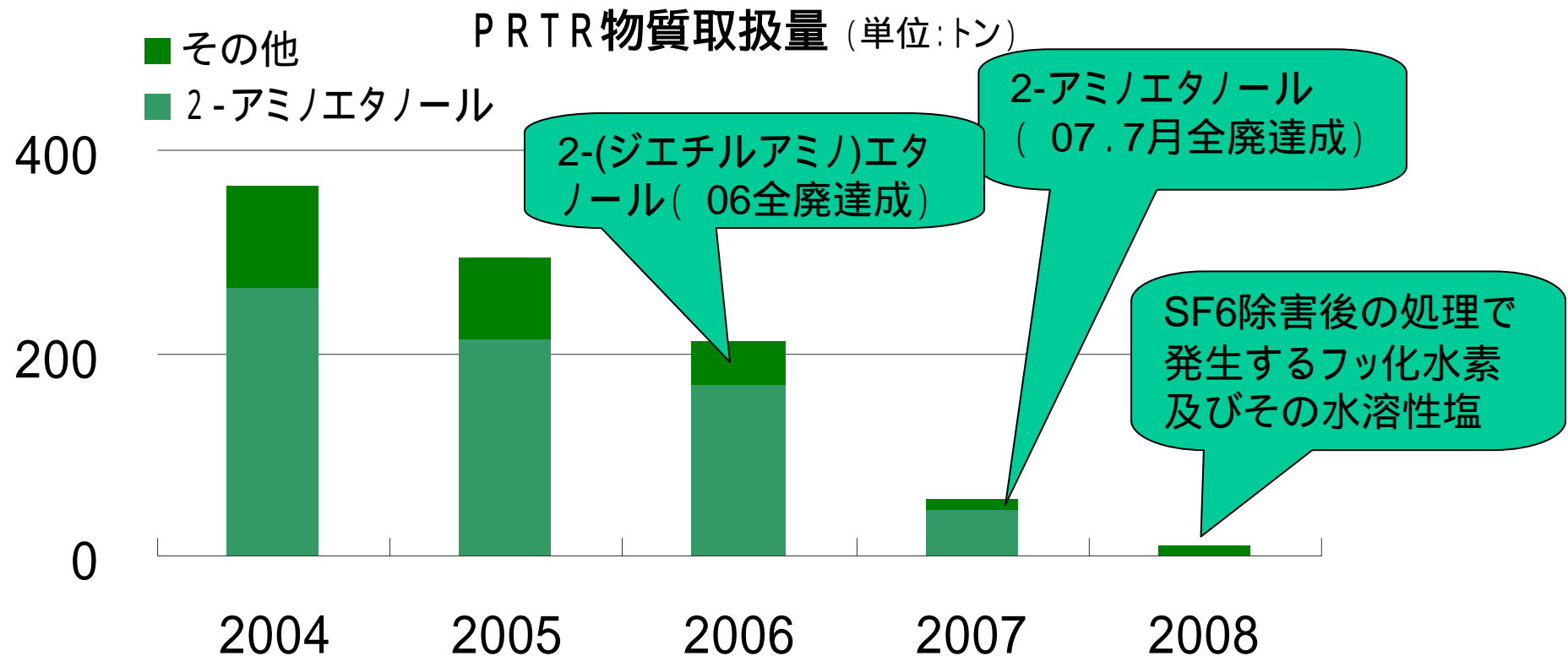
2002年度 事業所別 2-アミノエタノール(移動量+排出量)



2004 / 4月環境省公開データによる

今後のPRTR物質届出量見込み

2008年以降残る物質は、現状技術では、
削減困難と考えられる。



国内 2-アミノエタノール全廃達成 (2007年7月 本社切替終了)

2007年8月9日 | ニュースリリース | エプソンイメージングデバイス - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

アドレス(A) http://www.epson-imaging.com/newsroom/070809/index.html 移動

EPSON エプソンイメージングデバイス Select language

HOME | 製品情報 | テクノロジー | ニュースリリース | 企業情報 | 環境 | イベント | Epson Web Site | Epson.com

Newsroom

2007年8月9日

エプソンイメージングデバイス、PRTR対象化学物質「2-アミノエタノール」の国内使用を業界に先駆け全廃

セイコーエプソングループのエプソンイメージングデバイス株式会社(社長:有賀 修二、本社:長野県安曇野市)は、2007年7月にPRTR(環境汚染物質排出移動登録制度)対象化学物質である「2-アミノエタノール」の使用を国内全ての事業所において全廃しました。

液晶業界においては、業界を先行しての達成となります。^(*1)

現在当社で使用している化学物質は約200種類ありますが、この全物質の法規制対応、環境動向などを含めて管理しています。さらに、人の健康や生態系に有害な恐れがあるなどPRTR法の第一種指定化学物質に区分されている年間100kg以上の取り扱い対象化学物質は9種類^(*2)あり、これらの取扱量は、環境報告書および当社ホームページにおいて情報公開しています。さらに、1トン以上の取り扱い対象化学物質については、毎年行政機関へ報告しています。

この9種類のPRTR対象化学物質の中で「2-アミノエタノール」は、最も使用量が多いという観点から、2003年度より『2007年度中の国内事業所での使用全廃、2008年度中の海外製造法人・蘇州エプソン(略称: SZE、中国・蘇州)での使用全廃』を目標として活動を推進してまいりました。鳥取事業所(鳥取県鳥取市)につきましては、当社の主力工場であり、その影響度の大きさから、早期環境負荷低減に特に力をいれて取り組み、2007年1月に全廃を達成しました。また、これまで使用実績の大きかった本社につきましても、同じく早期環境負荷低減を目標に取り組み、2007年7月に前倒して達成しました。今回の国内事業所全廃は、目標を大幅に前倒して達成したものです。

Internet

化学物質を管理するシステムのカバー範囲

製品含有化学物質
管理DB

製品

部品
部材

工程使用
薬品等

基礎設備
使用薬品等

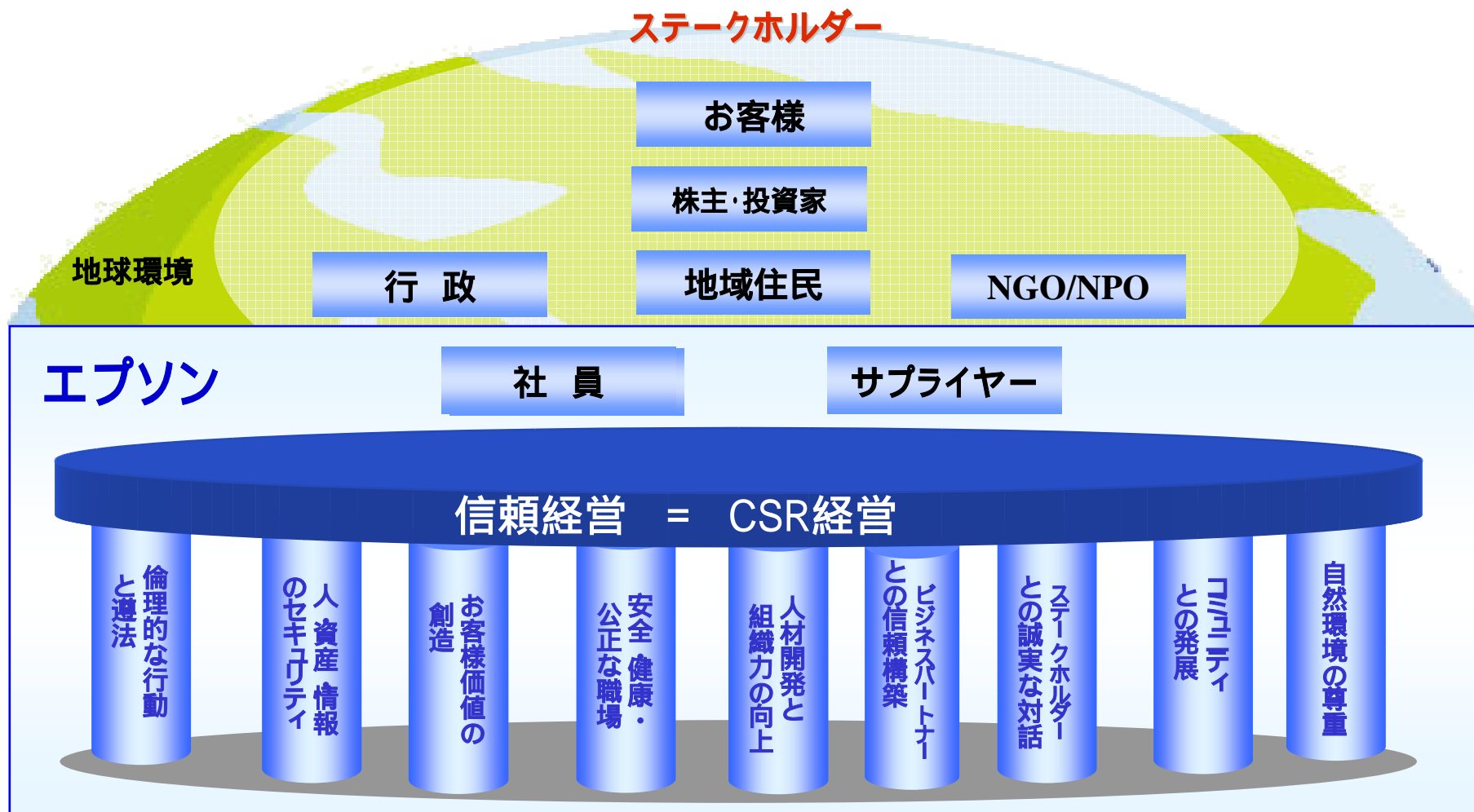
化学物質データ管理システム
E-chem

工場の IN ~ OUT 全てを対象に管理！

コミュニケーション

環境教育
社会貢献活動
社内外交流
情報発信

セイコーエプソングループのCSR活動

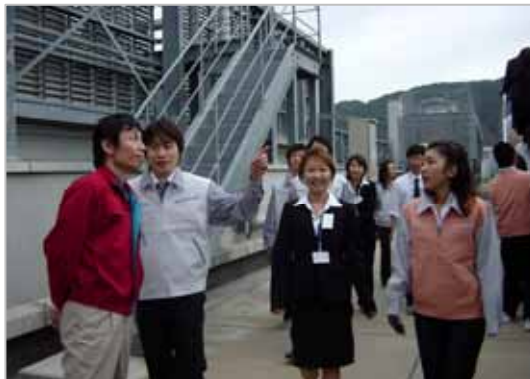


環境活動のベース：教育活動

環境教育

新人・中途者教育

当社環境基礎教育



新人基礎設備研修

社内向け教育

環境戦略 e - ラーニング他



推進委員会から全社員に

社外向け教育

グリーンベンダー教育 同業者、小中学生教育



鳥取修立小学校環境研修



中途採用者環境教育



環境ニュースで当社国内外に



三郷中 環境含む工程実習

社員への環境活動計画の伝達



**全社活動：当社環境大会
鳥取・松本・東京・岐阜**



環境戦略説明会



**海外連結活動：SZE・EIHK
グローバル環境会議**

地域と一緒に進める環境活動



鳥取:砂丘・白兔・浦富清掃



岐阜:事業所周辺清掃



本社:安曇野清掃



鳥取:環境にやさしい
公共交通機関利用推進企業認定



鳥取:近隣住民を招いて
地域との共存共栄を目指し



本社:
近隣徳次郎区との意見交換

社外に広げた環境活動



公共放送を通じて県内に



中国電力玉野支部を通じて



省エネセンター研修会を通じて



協力業者との共同活動
非含有化学物質説明会



協力会社との
省エネ活動(局所排気調査)

社内外に向け、環境情報の発信



地域密着安曇野活性化シンポで



日本語・英語版サステナビリティレポートを通じて世界へ



当社社外向けHPを通じて国内全域に